

あわゆず ふれず

第40号 2024年4月12日発行

伝えよう日本語を
広げよう徳島から



J T M と く し ま
日本語ネットワーク

子どものための「にほんご寺子屋」 15周年を迎えて

「にほんご寺子屋」は、2024年3月で15周年を迎えました。現在、小学生や中学生、高校生の10名を超える子どもたちが、「にほんご寺子屋」へやってきました。

「にほんご寺子屋」ができるまで

2008年の夏、例年と同じように、「夏休み子ども日本語教室」が開催されました。いつも終わったときに思うのが、夏だけでなく、1年を通して子どものための日本語教室ができないだろうかということでした。そこで、JTMの仲間といろいろ話し合い、2009年3月に「春休み子ども日本語教室」を行いました。そして、4月からは月1回、子どものための「にほんご寺子屋」を始めることにしました。

「にほんご寺子屋」の変遷

始めた当初から、子どもやスタッフが何人来てくれるかといった細かな打ち合わせをするために、必ずスタッフミーティングを行いました。さらに終了後には、今後に向けて子どもたちの様子を話し合う会を持ちました。内容も、「夏休み子ども日本語教室」と同じく、個別学習を1時間行い、その後30分間全体学習をするというスタイルでした。

「にほんご寺子屋」開設直後の2009年7月に開催したセミナー「外国にルーツを持つ子どもたちの未来への責任」では、講師としてお招きした国際日本語普及協会(AJALT)の関口明子先生から、「月1回では効果が薄い。週1回にして、さらに保護者のための教室もできるといいですね。」とご助言をいただき、それ以来、週1回の開設が新たな目標となりました。また、2011年1月に「外国にルーツを持つ子どもたちの未来への責任～他県公立学校の取り組みから学ぶ～」と題した講演会の講師として来ていただいた小川郁子先生からも「どうして月1回なの、毎週できないの」と聞かれ、まず一歩踏み出さなければと思いました。

2011年4月のJTMの総会で、文化庁の委託事業「生活者としての外国人のための日本語教育事業」として、6月から週1回「にほんご寺子屋」を開催することが決まりました。また、「にほんご寺子屋」に来ている子どもの保護者のための日本語教室も月1回行うことにしました。保護者の教室は2013年3月で終了しましたが、子どもの教室は、次の年も引き続き週1回行い、今に至っています。そして、保護者の教室も2020年から再開しました。

そのほか教室から外へ出て、いろいろな活動もしています。2023年12月には徳島城博物館を訪れ、十二単や鎧の試着体験をしました。日本の文化に触れるよい機会となり、皆笑顔いっぱいでした。

そして、2014年の春休みには、徳島中央ロータリークラブのご尽力で、株式会社フジタ建設コンサルタントさんへの「職場体験学習」が始まり、コロナ禍で中止の年を挟んで、現在も続いています。

未来へ向けて

先日、「にほんご寺子屋」が終わった後、ルーツも違い、在日年数も違う二人が、とても楽しそうに日本語で話をしていました。そんな様子を見るにつけ、この教室が日本での居場所として、子どもたちに受け入れられていることだと、とてもうれしく感じました。本当に「にほんご寺子屋」を続けてきて良かったと思いました。

私たちは、子どもたちが一日も早く日本語を覚え、自分らしく毎日を送り、将来に向けて力強く生きていけるよう願っています。そのために、少しでも彼らの前進するお手伝いできればと考え、JTMの仲間とこれからも、活動を続けていきたいと思っています。子どもたちの持つ力を信じて…

(長町 順子)



JTMとくしま日本語ネットワーク 2023年度第1回定例会

座談会「いっしょに考えよう！～外国人の日本での子育て～」

日時：2024年2月17日（土）14：00～16：00 参加人数：48名

場所：公益財団法人 徳島県国際交流協会（トピア） 大会議室

共催：徳島中央ロータリークラブ 後援：徳島県教育委員会・公益財団法人徳島県国際交流協会

協力：県下のファミリー・サポート・センター（運営 公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク）

「徳島での子育てで困っていることは何ですか？」とのJTMの問いかけに5人の外国人の方が発表してくれました。また、「彼らの悩みを共有し、まずは名前呼び合える関係をつくりましょう。」との呼びかけに徳島の経済界の方々をはじめ、多くの地域の方が応えてくれました。

座談会はまずパネラーの意見発表、次にアドバイザーの意見、グループトーク・発表、最後に全体での質疑応答の順に進められました。

① カリナワン チャリティーさん（フィリピン）12歳で家族と来日。現在20歳で2歳の子の母。



私の両親は言葉の壁で苦労した。私自身、文化の違いへのストレスは大きかった。外国人のママが息抜きができ、英語を使える環境を増やしてほしい。母国では子育てはコミュニティで助け合うが、日本では母親が一人で子育てをすることが多く、孤立感とストレスで苦しむ人もいる。「お互い様」とサポートし合える友達と一緒に、楽しく子育てができるコミュニティを作りたい。娘には日本と母国の文化を十分に理解して、いろいろな道に進む可能性を広げてほしい。

グループトーク「情報は子育てのカギ！」

アドバイザー：徳島中央ロータリークラブ 野口 計一会長

：板野東部ファミリー・サポート・センター 港 満海所長

チャリティーさんはファミリー・サポート・センター（以下、「ファミサポ」）の存在を今回初めて知ったそうで、若い世代がアクセスしやすいInstagram等での育児情報の提供や情報の多言語化を希望しました。アドバイザーからは「ファミサポはいつでも扉を開けて待っているので頼ってほしい。」という温かい言葉がかけられました。

② チャン ゲン フーンさん（ベトナム）約1年前に来日。小4の双子、中1の子の母。



来日当初は子どもが自分で学校の準備をし、徒歩で登校することなど文化の違いに親子で驚いたが、今は慣れてきた。日本はベトナムと比べて、空気がきれいで交通事情も安全だが、一番の課題は日本語だ。子どもたちに友達が少ないのも心配だ。日本語で困った時は、夫やトピアの方の助けを借りているが、母親としては少し寂しい。子どもたちには大学に進学し、好きな仕事に就いて、幸せになってほしい。

グループトーク「いつでも頼って、フーンさん」

アドバイザー：公益財団法人徳島県勤労者福祉ネットワーク 石堂 佳子常務理事

：阿南ファミリー・サポート・センター 佐川寿栄美所長

言葉の壁に悩むフーンさんにファミサポのアドバイザーから、できるだけいろいろな所に頼るようにと具体的な相談先の提示がありました。また、将来のキャリアのためにと運転免許や介護に関する講座の紹介もありました。フーンさんは「こうしたアドバイスはありがたい。今後利用してみたい。」と話していました。

③ ゴンチャルック オレナさん（ウクライナ）在日10年目。2歳10か月の子の母。



子どもの保育園や幼稚園の手続きのシステムがわかりにくく、情報が少ないので困っている。ウクライナでは子どもを産むとすぐに幼稚園に申し込みができるので、将来の予定も立てやすい。日本では、申し込んでから返事が来るまでに時間がかかるし、入園ができない場合の理由もよくわからない。手続き書類もフリガナがなく、外国人には読みにくい。これから子どもが成長、進学していく中で、さらに公的な手続きが増えてくるのでこのままでは心配だ。

グループトーク「少しでもやさしく」

アドバイザー：徳島中央ロータリークラブ 美馬香都子会員

：徳島ファミリー・サポート・センター 坂東 玲子所長代行

オレナさんの経験に基づき、幼稚園等の入園手続きをはじめとする行政サービスの外国人に向けた情報やサポート不足の解消について話し合いました。多言語ややさしい日本語での説明、大まかな流れの説明や言葉が分かる人のサポートなどがあれば不安を軽減できるのではないかという提案がありました。また、手続きや入園許可基準の複雑さの解消も大きな課題です。

④ 陳 芳瑜さん(中国 上海) 在日34年。徳島在住23年。26歳と22歳の子の母。



国が違えば文化や習慣が大きく違う。私は日本で出産し、その後、仕事をしながらの子育てと専業主婦としての子育てを経験したが、一番大切だと感じたことは、母親自身が積極的に社会参加をし、友達をつくることだ。現在トピアの相談員をしているが、じっくりと話を聞いて相手を理解し、関係をつくることを心掛けている。子育ての悩み相談では、環境を変えたことで視点が変わって落ち着いたり、母語でサポートをすることで解決したりすることがあった。外国での子育てはより一層孤独でつらいこともあるが、子どもの成長を見ることは親の醍醐味と言える。

があった。外国での子育てはより一層孤独でつらいこともあるが、子どもの成長を見ることは親の醍醐味と言える。

グループトーク「お節介は世界を救う」

アドバイザー：徳島中央ロータリークラブ 木村 清志次期会長

：美馬ファミリー・サポート・センター 松尾佳代子所長

陳さんの豊富な異文化経験から、国、地域、個人によって子育ては様々だが、人とのつながりをつくり、孤立しないことが大切だと話し合いました。古き良き日本のお節介の精神は人をつなぐ要であり、情報収集や仲間づくりの得意な人がコーディネーターの役割をして、交流サイトなどをうまく活用していくことが大切だという意見が出ました。

⑤ テツロウ アディティアさん(インドネシア) 2020年東京で就職。2022年に徳島へ。8か月の子の父。



母国では家族全員が子育てに関わるが、日本では母親一人が引き受けていることが多いのに驚く。父親として育休やリモートワークの申し入れをしたが、会社は受け入れてくれなかった。徳島での子育てで大変なことは子どもの病気だ。英語のわかる医師がいる病院が少ない。ただ、病院のスタッフができる限り英語を使って対応してくれることに感謝している。また、自然が豊かで外で遊べること、ショッピングモールのベビールームが充実していること、何

より人が優しいことが気に入っている。子どもにはいろいろなことをさせてあげたいし、自分が生まれたこの徳島を忘れず、尊敬してほしい。

グループトーク「困っています！」

アドバイザー：徳島中央ロータリークラブ 増田 優男会員

：かいようファミリー・サポート・センター 野根 貴子所長

テツロウさんの友人ご夫妻から、頼れる人のいない外国人が仕事や学業に従事するうえで、両親が働いていないと保育園の受け入れが認可されない現行のシステムが、大きな悩みの種になっているとの問題提起がありました。参加者から、「地域の中で互いを思い助け合う環境づくり」や「欧米のみでなくアジア諸国を含めた真のグローバル化」が大切であり、結果として、それは外国人だけでなく、日本人にとっても住みよい社会づくりにつながるとの意見がありました。

アンケートでは「参加してよかった。」「今日の座談会に参加して世界が広がった。」「できることから始めたい。」という感想があり、「ここでママ友ができた。」という嬉しい報告もありました。

多様性を認め合い共に生きるには、まず相手を知ることから始めることの大切さを実感した定例会でした。

(岡部 幸子)





2023年度 JTM

● にほんご寺子屋

開催日 毎週日曜日 13:30~15:00

場所 徳島県国際交流協会 (トピア)

日曜日の午後、外国にルーツを持つ子どもたちがトピアにやって来ます。中には教室開始の30分以上前から来て友だちと楽しく会話する子もいます。自分と似た境遇の友だちとの時間を楽しみにしているようです。

教室は子ども一人ひとりに支援者がつく個別学習と全員で学ぶ全体学習があります。

個別学習では来日間もない子どもは、文字学習だけでなく学校生活の約束事や友だち関係を円滑にする言葉や態度をイラストなどを使い学習します。しかし、学年が進むにつれて抽象的な「学習言語」が増えると、どうしても苦手な科目が増えてきます。日本人なら幼い時から見聞きし体験しているような事象の積み重ねがないことと、家庭では母語だけを話したりインターネットで母国の音楽などを聞いたりして、日本語や日本文化に触れる機会が少ないのも原因の一つだと思われます。全体学習ではこうしたことを念頭におき、テーマを決めて学習しています。日本語力に差がある子でも楽しめるように、読み聞かせや日本の歌、間違い探し、漢字遊び、俳句作りなどを行い、日本の四季の行事も大切にしています。

また、12月には教室から外へ出て「徳島城博物館での十二単ひしや鎧の試着体験」をしました。特に6年生は歴史学習とリンクし興味が深まりました。「職場体験学習」では株式会社フジタ建設コンサルタントを訪問しました。参加者用に準備された名刺を使って挨拶をしたり、インタビューをしたりしました。また、パソコンで図面を描いたり、ドローンのシミュレーターを操作したりもしました。こうした体験を通して「働く」ことがイメージでき、自分の将来の夢を考えることにつながりました。

にほんご寺子屋では、これからも子どもたちの気持ちに寄り添った活動を続けたいと思っています。

(吉田 尚子)



● 日本語サロン

開催日 毎週月曜日 10:30~12:00

場所 徳島県国際交流協会 (トピア)

日本語サロンは、2002年にスタートしました。最近5年間では38か国、コロナ感染拡大のため休止していたにもかかわらず、延べ人数1,184人の学習者が参加しています。地域としては当初から多かったアジアのほかに、ヨーロッパや中南米、ウクライナやロシアなどさまざまです。世界情勢により国と国との関係が難しい昨今ですが、こうした情勢とは関係なく同じ場所で共に日本語を学んでいる姿には心を動かされます。

サロンは大人の外国人が対象で、個人の要望に応じた日本語の指導や支援を行っています。学習者が増えたためスタッフが足りないこともあります。できるだけマンツーマンで学習者個人個人の希望を叶えられるよう工夫をこらして活動しています。サロンでの時間が、徳島に住む外国人にとって大切な時間になるようお手伝いを続けていこうというのがスタッフ一同の思いです。

(坂田 優子)



チーム活動



● 日本語指導部

開催日 毎月第3または第4土曜日 14:00~16:00

方法 オンライン (Zoomを使用)

日本語指導部研修会は、2003年に日本語の教授法を共に学ぶ場としてスタートしました。現在の日本語指導部は一定の条件を満たし日本語指導に努力を惜しまない熱意あるメンバーで構成されています。研修会はその月の担当メンバーが30分の模擬授業を行い、他のメンバーは学習者の役割を担い、それぞれの立場から良い点や改善すべき点を話し合っています。日頃は日本語教師として活動する中で、この機会は学習者の視点から学ぶことができる貴重な経験となっています。新型コロナウイルスの影響で対面授業が難しくなったことから、オンライン授業について学び、現在では研修会はオンラインで行っています。



日本語指導部研修会

公益財団法人徳島県福祉基金の助成を受け、「学ぼう！日本のことばと文化」と題したオンライン講座を5月から7月にかけて開催しました。学習者からはオンライン授業は仕事と学習の両立がしやすかったとの声が多数寄せられました。また、株式会社土佐電子からの依頼で開始した日本語講座は2年目を迎え、徳島本社工場に所属するベトナム出身の21名の社員の方に日本語能力試験対策の授業を行っています。多人数のため、レベル別のクラスに分け、合格に向けて真剣に取り組んでいます。



株式会社土佐電子の授業風景

今年度は、徳島県国際交流協会・徳島県労働者福祉協議会の日本語講座、大学や企業の日本語講座、助成金による講座、個人レッスンなど様々な授業を行いました。今後も、日本語指導部研修会を通じてメンバー全員で効果的な指導法を学び、その成果を学習者に還元できるように努めていきたいと思えます。(玉置 房)

● 日本語指導勉強会

開催日 毎月第2土曜日 13:30~15:00

場所 徳島県国際交流協会 (トピア)

毎月1回、JTM作成のテキスト『こんにちは とくしま』を使って、会員の日本語指導の上達を目指し、勉強会を行っています。

2023年度は11回開催、会員延べ65人、見学者2人の参加がありました。

勉強会の内容は20課あるテキストを1課ずつ進めていきます。事前に決めた担当2人が、1人5分の持ち時間で模擬授業を行い、その他の参加者が学習者役を務めます。模擬授業のあとは、学習者と指導者の両方の立場から授業の改善点、参考になる点を挙げ、皆で話し合いをします。最後に司会者とその課の到達目標や指導のポイントをまとめた要約を配って説明し、参加者の理解を深めています。



同じテキストを何度も繰り返し勉強しているのに、毎回新たな気づきがあり、ことばの奥深さや難しさに魅せられています。(竹治 博)



2023年度 写真で

JTM総会

2023年度JTMとくしま総会



日本語サロン



日本語指導勉強会



にほんご寺子屋



春休みにほんご寺子屋(職場体験学習) 株式会社フジタ建設コンサルタント



徳島県委託 夏休み子ども日本語教室



綴るJTMの活動

JTM日本語講座

「学ぼう!日本のことばと文化」(昼の部)



(夜の部)



「技能実習生日本語講座」(株式会社土佐電子の皆さん)



「インドネシア日本語会話教室」



第1回定例会 座談会

いっしょに考えよう～外国人の日本での子育て～



他にもこんな活動をしています。

- 徳島県国際交流協会「日本語教室」日曜日担当
- 学校からの要請による日本語支援
- 徳島文理大学「日本語能力試験N1対策講座」
「夏期日本語・日本文化研修」担当
- 企業での日本語教室
- プライベートレッスン
- 徳島県労働者福祉協議会
「外国人のための自動車運転免許取得支援講座」担当
- 運営会(オンライン会議)月1回
- 会報『スマイル通信』月1回発行
- 機関紙『あわゆずぶれす』年1回発行

INFORMATION

◆会員数(2024年3月31日現在) 正会員数35名 協力会員数6名
◆入会随時受付中! 正会員…会の活動に参加し、ともに運営を行います。
協力会員・団体…会の活動を支援する個人または団体

活動紹介

ブラッシュアップのために

- ◇日本語指導勉強会
 - *毎月第2土曜日13:30~15:00
 - 〈模擬授業と意見交換〉日本語に関心のある方ならどなたでも参加できます。
- ◇日本語指導部研修会
 - *毎月第2または第3土曜日
- ◇定例会



日本語学習をサポートする交流活動

- ◇日本語サロン
 - *毎週月曜日10:30~12:00
 - 徳島県国際交流協会(トピア)会議室
- ◇にほんご寺子屋
 - *毎週日曜日13:30~15:00
 - 徳島県国際交流協会(トピア)会議室



徳島県福祉基金助成金事業

- ◇オンライン日本語講座「学ぼう!日本のことばと文化」
2023年5月19日~7月25日 週2回(火・金)
昼コース 10:30~12:00
夜コース 19:30~21:00 各コース全20回

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会主催講座

- ◇外国人のための自動車運転免許取得支援講座
(読解力を高めるための日本語講座)
2023年9月27日~2024年1月10日(全14回)
*毎週水曜日 18:30~20:30 ハイブリッド形式

日本語レッスン

- ◇プライベートレッスン・グループレッスン
- *詳しくは事務局またはレッスン専用メール
jtmntoku-lesson@mbk.nifty.com まで。

義援金をお送りしました

- ・2023年5月25日「トルコ・シリア地震」
- ・2024年3月11日「能登半島地震」

JTMとくしまのオリジナル教材紹介

Konnichiwa Tokushima こんにちは とくしま

徳島で日本語を学ぶ人のために



2020年2月
「教え方の手引き」発行

子どもと暮らすための こんにちは とくしま

徳島で子どもを育てる人のための日本語教材



- ・全12課
- ・季節や身近な場面に合わせてどの課からでも学習できます。
- ・子育てを通して、まわりの人とうまくコミュニケーションできるようになるための表現が学習できます。
- ・学校の通知文の読み方や返事の手書き方の練習ができます。
- ・生活情報がクイズ形式で学習できます。
- ・学校や生活に役立つ情報が得られます。

●ご購入・お問い合わせ JTMとくしま事務局

ご支援をいただきました

- ・徳島県福祉基金より助成金をいただきました。
- ・国際ロータリー第2670地区ロータリー財団委員会および徳島中央ロータリークラブより補助金をいただきました。

あ と が き

今年度の定例会は、5人の外国出身の方々に「日本での子育て」について発表していただきました。このことは外国の人たちが子育てしやすい状況を考えるきっかけになり、徳島の明るい未来を予感できる取り組みとなりました。この「あわゆずぶれす」では、その他の活動についても紹介していきます。ぜひご覧ください。(村松 幸子)

発行 / JTMとくしま日本語ネットワーク

発行責任者 / 兼松 文子

編集責任者 / 山満十糸子

編集スタッフ / 加村 匡子・玉置 房・辻 暁子・長町 順子

村松 幸子・杜 美智・吉田 尚子・渡辺由紀子

印刷 / 徳島県教育印刷株

■JTMとくしま日本語ネットワーク

〒770-0942 徳島市昭和町3丁目35-1 わーくびあ徳島2階

公益社団法人 徳島県労働者福祉協議会内

TEL 088-625-8387 FAX 088-625-5113

E-mail jtmntoku@nifty.com

URL <https://jtmntoku.com/>

<https://www.facebook.com/jtmntoku/>



HP



フェイスブック